

米株急落。しかし押し目狙う向きはまだ多いか？FRBの反応次第に

- 3日の米株は大幅下落
- 特段材料なし。しかし、まだ押し目狙う向きは多いか
- 信頼から不安へ。助長も回帰もFRBの評価次第に

■ 米株急落

9月3日、米株は急落しました。S&P500株価指数は一日で▲3.5%、ナスダック総合指数は同▲5.0%となりました。なお、前者は6月初め以来の下げ幅となりました(図1)。

特段、何か大きな材料があった訳ではありません。この日発表の新規保険申請件数は88.1万人と市場予想の95万人よりむしろ良い結果でした。8月ISMサービス業景気指数も56.9と同57.0を僅かに下回った程度です。また有力政治家から、議論が難航する財政刺激策の大統領選前の成立は難しいとの声も上がりましたが、さほど目新しさはありません。

しいて言えば、2日に前日比▲5.8%急落した電気自動車大手テスラ、今次グロース相場での象徴的存在の下落は目立ちました。同社株が8月末に付けた最高値は年初来4.8倍に膨れ上がった水準、3日も同▲9.0%と大きく下げました。後解釈ですが、IT寵児の急落はサインだったかのようです。

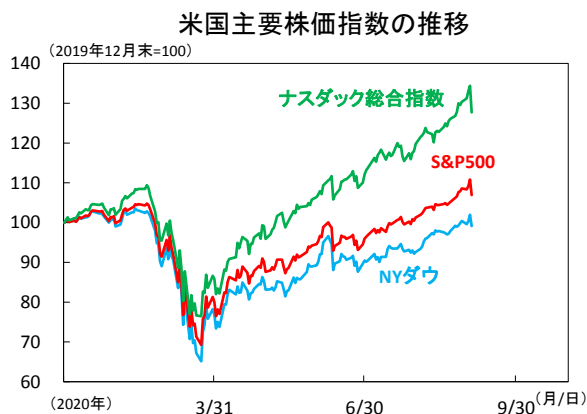
とはいえ、テスラならずとも高値警戒感株式市場にまん延していました(図2)。このため、8月中旬にS&P500が今年2月の高値を更新して以降、投資家の株価上昇モメンタムへの「信頼」は、「不安」に変化するとみていました。今回は、まさにこの不安心理が急落を生んだとみています。

しかし我々投資家にとって重要なのは傷をなめることではありません。昨日のような下落が「終りの始まり」なのか、或いは単に「調整」なのかどうかを見極めることです。正解はなくとも、手掛かりはあるだろうとみています。

そのヒントになるかも知れない指標として広く知られるのが「プット・コールレシオ」、株価指数オプション市場における、プット(売る権利)とコール(買う権利)の比率をみた指数です。端的には、売る権利のボリュームが多いか、買う権利のボリュームが多いかということです(図3)。これをみると、まだコールが優勢にみえます。押し目を拾う投資家はまだまだ多いかも知れないと想像できるでしょう。

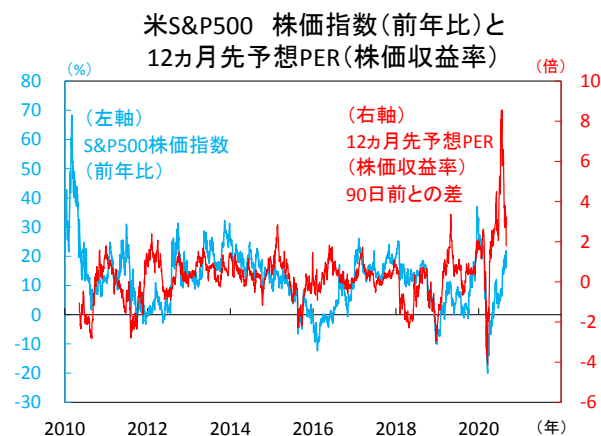
信頼が不安に変われば、人々は早めに対処しようとする心理が働きます。では、誰が不安を信頼に戻せるか？巨額の流動性を供給し、上昇モメンタムへの信頼を市場に植えた付けたFRB(連邦準備理事会)こそが、市場に漂う不安心理を払拭できるキーマンになるとみています。(徳岡)

【図1】3日の米株価は急落



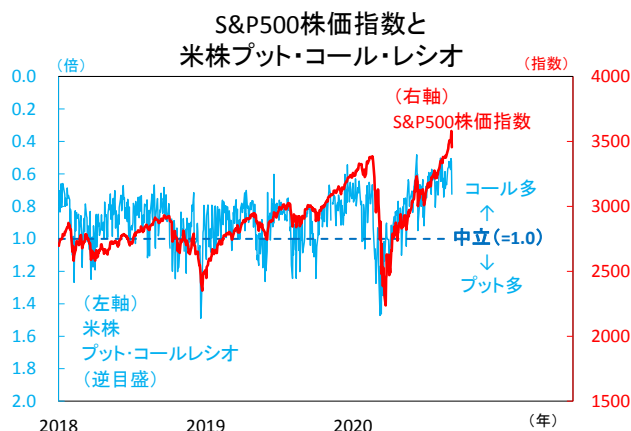
注) 直近値は2020年9月3日。指数化は当社経済調査室による。
出所) S&P、Bloombergより当社経済調査室作成

【図2】PERは既に伸びきっている



注) 直近値は2020年9月3日。
出所) S&P、Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】買いたい向きはまだ多いか



注) 直近値は2020年9月3日。プット・コールレシオは全米5株式市場の全体の合成値、集計はBloomberg。

出所) S&P、Bloombergより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会